



たりしたのだが、その思いは伝わらなかつた。最後まで指導しきれなかつたのは、自身の失敗だったと今でも後悔が残る。

「一生懸命日本語の勉強をしていたので、とても残念に思いました。一緒に就労する人たちの人間関係も重要です。それ以降、面接の時は良質な人間関係を築き、健全な社会生活を送れる人物かどうかのポイントを置いて話を聞くようになりました。」
 実習生の気持ちに寄り添いつつ

も、企業の利益も優先しなければならず、バランスは難しい。

「私は他の人から実習生に寄りすぎると言われます。つい実習生の立場に立って、気持ちを考えすぎてしまうのです。」

嬉しい知らせ

母国を離れ、それぞれの目標を持つて来日する実習生たちだが、異国の地で挫折を味わい、早々に帰国してしまう場合もある。そういう人たちが少しでも減り、日本での生活が有意義になるように、陳は親身になって寄り添う。陳を信頼して、実りある3年間を過ごした実習生から帰国後の活躍を聞くことは至福の喜びである。

「日本に来てよかったとか、帰ってから日本語や実習生活で学んだことを活かして働いていると聞くと、本当に嬉しく思います。また、企業の方から『良い人を入れてくださってありがとうございます』というお言葉をいただ

くと、もつと頑張ろうと私自身が励まされますね。」

日本での生活を人生の糧に

今後の目標は、法律が変わった実習制度の勉強をして最前線に身を置いておくことだ。そして、もつとベトナム語の勉強もしたいという。

「今、ベトナム出身の20歳前後の男子4人を担当していて、みんな仲良く勉強にも仕事にも熱心に打ち込んでいます。彼らの姿を見るとエネルギーをもらえますね。ベトナム語をマスターしたいのですが、発音が難しくて……」。

9歳を筆頭に、5歳、4歳の3人の母親でもある陳。3度の産休を経て、長きにわたり若い実習生たちに力添えをしてきた。

「昔と違って、苦勞を乗り越えて頑張る通せる人が少なくなってきました。来日する人々には、自分の人生の3年間をかけて貴重な経験を積むことを第一の目標としてほしいと

思います。」

事務所のアットホームな雰囲気大好きだと語る陳。自身も実習生たちを家族のように温かく迎え入れる。これからも彼らの心の拠り所となり、近くで見守り続けることだろう。



企業情報

- ◆ 設立年：1990年6月
- ◆ 年商：53億円

※ 2019年9月時点